

## 2年サイエンスツアー（探究科）報告書

### 1. 目的

先端的施設での研究・事業内容に触れ、学問に対する関心や探究心を高め、将来の進路設計の一助とし、化学・農業・医療健康について国際的な見地をもてるようにする。

### 2. 日程

10月5日（金）サラダコスモ信州工場

JICA 駒ヶ根

長野県看護大学

### 3. 研修の報告

5日（金）

#### **サラダコスモ 駒ヶ根工場**

事業の説明、工場見学など受けた。

#### **JICA 駒ヶ根**

実際に協力隊として活動した方の話を拝聴、難民問題の課題研究の発表

#### **長野県看護大学**

飯山高等学校の卒業生から大学の授業・生活に関する話を聞く、校内の見学



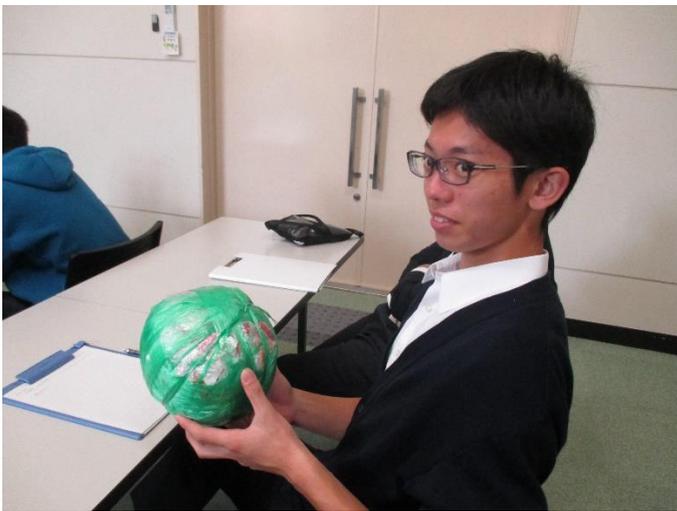
←サラダコスモ もやしの原料の説明をうける様子



←サラダコスモ 企業・事業の説明をうける様子



←JICA 駒ヶ根 職員から説明を受ける様子



↑JICA 駒ヶ根 職員の方が作ったサッカーボール



←JICA 駒ヶ根 課題研究の発表の様子



↑ JICA 駒ヶ根 職員の方にアドバイスをうける様子



↑ 長野県看護大学 本校卒業生から話を聞く様子



↑ 長野県看護大学 校内の見学中に授業見学をした様子



↑長野県看護大学 集合写真

#### 4. まとめ

サラダコスモ信州工場の見学では、日々自分たちが食している食材がどのようにして食卓に並ぶのかを理解することが出来た。また、食品関連の企業など普段馴染みのない企業の工場を見学したことで、生徒の職業観に多様性をもたらすことが出来た。

JICA 駒ヶ根では、実際に海外に赴いた青年海外協力隊として活動した方のお話を聞く機会を頂いた。授業などでは理解することが難しい現地の生活風景や生活について興味深く聞いていた。自分たちが当たり前のように通う学校や利用している学校施設が、アフリカ諸国では満足に用意されていない事実を知ることが生徒は衝撃を感じていた。また、現地の学校で体育教師として働いていた職員の方が用意したサッカーボール(現地ではサッカーボールがなかったため、ビニール袋を何重にも重ねて作成)に興味深くみていた。

さらに JICA 駒ヶ根では、本校の課題研究の「難民問題」を調べている生徒の発表が行われた。発表後、職員の方から今後の研究方法や調べる対象のアドバイスを頂き、今後の研究への課題を見つけることが出来た。

長野県看護大学の見学では、学校の説明を受けた後に学校内を見学させて頂き、大学の最新設備の体感することが出来た。その後、本校を卒業した学生から大学生活の話聞いたほか、入試・受験勉強に関する話を聞いて、今後の進路選択・勉強に対する姿勢を考えさせられていた。

今回、3つの見学場所を経て、生徒の進路選択に大きな刺激を与えたほか、職業観・国際観に大きな影響を与えることが出来た。知識としては理解していても実感として得ることが難しい感覚を今回の見学で感じる事が出来たと考える。また、実際に大学を訪問したことで来年に控える受験に対して、ポジティブな刺激を受けて準備に向かうことができると考える。